

[普及事項]

新技術名：ストロビードライフロアブルの新梢伸長期によるブルーベリー斑点病防除

(平成16～17年)

研究機関名 果樹試験場 環境部病害担当
担当者 佐藤 裕・深谷 雅子他2名

[要約]

ストロビードライフロアブル(クレソキシムメチル)3,000倍散布はブルーベリーの新梢伸長期に散布することで斑点病の発生を抑制できる。

[ねらい]

ブルーベリー斑点病は、糸状菌の*Pestalotiopsis*属菌による病害であり、葉及び新梢に発生し、本県では新梢伸長中の5月下旬頃、下位葉に暗褐色の斑点を生じ、その後上位葉でも病斑が生じ、発病葉はやがて落葉する。多発時にはほとんどの葉が落葉し、果実品質の低下や翌年の花芽不足を招く。

生育期のブルーベリーに使用できる殺菌剤が無いため、県内の一部産地では多発し、減収の主要因となっている。そこで有効な防除薬剤を明らかにし、登録に向けた取り組みを行う。

[技術の内容・特徴]

- 1) ストロビードライフロアブル3,000倍散布はブルーベリー斑点病に対し、5月末頃および6月上旬に散布した結果、高い防除効果が得られた。(表1、表2)
- 2) 本剤散布による葉、果実、枝への薬害は認められなかった。

[対象範囲]

ブルーベリー生産地全域

[普及・参考上の留意事項]

- 1) 発生が多くなってからでは効果が劣るので、発生初期から使用する。
- 2) 発病は下位葉から始まるので、樹の元から先端まで十分薬液が付着するよう散布する。
- 3) 安全使用基準を遵守する
(使用濃度：3,000倍、使用時期：収穫14日前まで、使用回数2回以内)。

[具体的なデータ等]

表1 ブルーベリー斑点病に対するストロビードライフロアブルの防除効果 (2004年)

| 供試薬剤 | 濃度 | 調査葉数 | 発病葉率 (%) | 落葉率 (%) | 被害葉率 (%) | 防除価 |
|---------|--------|-------|----------|---------|----------|------|
| ストロビーDF | 3,000倍 | 233.5 | 3.6 | 0.2 | 3.8 | 95.9 |
| 無処理 | — | 224.0 | 82.3 | 59.9 | 92.8 | |

散布：5月26日、6月9日 調査：6月23日（2回目散布から2週間後）

数値はいずれも2区の平均値、防除価は被害葉率を基に算出

表2 ブルーベリー斑点病に対するストロビードライフロアブルの防除効果 (2004年)

| 供試薬剤 | 濃度 | 調査葉数 | 発病葉率 (%) | 落葉率 (%) | 被害葉率 (%) | 防除価 |
|---------|--------|-------|----------|---------|----------|------|
| ストロビーDF | 3,000倍 | 311.0 | 4.1 | 0.0 | 4.1 | 94.8 |
| 無処理 | — | 312.0 | 54.0 | 51.7 | 78.3 | |

散布：5月26日、6月9日、6月23日（果実着色はじめ）

調査：7月7日（3回目散布から2週間後）

数値はいずれも2区の平均値、防除価は被害葉率を基に算出

表3 供試樹の落葉状況 (2004年)

| 供試薬剤 | 濃度 | 調査葉数 | 落葉率 (%) |
|---------|--------|-------|---------|
| ストロビーDF | 3,000倍 | 285.0 | 19.6 |
| 無処理 | — | 286.5 | 78.8 |

数値はいずれも2区の平均値

調査：9月29日

[発表文献等]

なし